

# 新潟市潟環境研究所 第9回月例会議（概要）

日時：平成27年1月21日（水）午後3時～午後5時

場所：新潟市役所第1分館101会議室

## ■会議概要

### 1 開会

### 2 報告及び情報提供

「(仮称)潟のデジタル博物館」進捗状況について報告（潟環境研究所事務局）

### 3 業務紹介

「区役所と潟との関わりについて」

#### (1) 北区 地域課

- ・北区には主な湖沼として、福島潟、内沼潟、十二潟、松浜の池（ひょうたん池）がある。
- ・特に大きな福島潟については、「水の公園福島潟」関連施設として、市が管理する水の駅「ビュー福島潟」、潟来亭、菱風荘、遊水館のほか、国が管理する「雁晴れ舎」、県が管理する「環境と人間のふれあい館」がある。
- ・平成26年4月から、ビュー福島潟は指定管理者制度に移行したが、新潟市と業務分担を行いながらも連携して事業にあたっている。
- ・この1月には、区の鳥として「オオヒシクイ」を選定した。

#### (2) 中央区 地域課

- ・中央区にある鳥屋野潟はあまりにも大きくて、区との関わりというより、本庁との関わりが大きい。
- ・区では、区民生活課が「とやの物語」の実行委員会事務局を所管している。来年度は「とやの物語」セカンドステージの最終年という位置づけ。鳥屋野潟を愛し、守り続けるための組織体制の充実も図っていきたい。

#### (3) 西区 地域課

- ・佐潟水鳥・湿地センターを所管している。年間7～8万人の利用があったが、最近では6万人ほど。
- ・佐潟ボランティア解説員は42名の登録がある。
- ・佐潟は砂丘湖といわれてきたが、実際は砂丘列間の低地に位置するものである。佐潟を説明する際には図などを示し、説明するようにしている。

#### (4) 西蒲区 地域課

- ・上堰潟公園の大きな役割は、①洪水調整池の役割と②水や自然に恵まれた公園の役割
- ・平成10年度に公園として整備された。1周2キロの遊歩道は冬でも利用が多い、春には桜、菜の花、秋にはコスモスなど四季折々の花々が楽しめる。

## 4 講義

「上堰潟のあゆみ」(外部相談員 齋藤 一雄／上堰潟を育てる会会長)

- ・昭和30年代前半に松野尾・松山耕地整理（土地改良）。用水も西川水となる。
- ・昭和42年、潟の測量が終わっていたが、減反政策が始まった関係で、干拓が中止となった。
- ・昭和50年代に西山川の工事が始まると、かんがい用水源としての必要性がなくなり、雑草などが生え荒野化していった。
- ・上堰潟公園の池は、かつては沼地で国有地であった。公園整備は洪水調整池として新潟県によって行われ、平成11年に供用開始となった。
- ・上堰潟の堤防は上堰潟公園を造る際に、上堰潟を掘った湖底の土で作った。
- ・現在の上堰潟の中州は昔の潟の湖底である。
- ・近年では、西山川をサケが遡上してくるようだ。下流の西山川の水門が撤去されたことが影響していると考えられる。
- ・上堰潟は野鳥の休憩地、採餌地として重要であり、夏鳥7種、冬鳥22種、漂鳥8種、留鳥16種、旅鳥8種、合計61種の野鳥が飛来する。オオヒシクイは警戒心が強く、隠れ場所・安全なねぐらとなるヨシ原がないと飛来しないため、上堰潟では確認することができない。
- ・東京の武蔵野美術大学の学生たちと市民で、「稲わら」を活用し作成したわらアート作品を展示する「わらアート」まつりが夏に開催されている。
- ・地元の小学校の子どもたちを田舟に乗せたり、3月にはサケの稚魚放流も予定している。こうした体験を通じて、上堰潟を理解し、良い思い出の場として記憶に留めてほしい。
- ・上堰潟で舟を浮かべられるようになったのは近年のこと。舟着き場を整備し、地元の人々が有効活用できるようになることを望む。